

建築計画学研究室

皆様、いかがお過ごしでしょうか。

2026年度の当研究室は、学生35名（博士9名、修士2年11名、修士1年9名、4年生5名、研究生1名）が在籍し、日々勉学に励んでいます。学生のうち留学生は14名と半数弱を占め（40%）、国際色豊かな雰囲気が特徴です。教員は、森傑教授、野村理恵准教授、坪内健助教が在籍し、事務補助員のご協力もいただきながら、これまでの研究室の精神を引き継ぎつつ活動しています。

研究活動は、教員・学生それぞれの関心にもとづきながら多角的なテーマに取り組んでいます。例えば教員の近年の主なテーマとして、気候変動による居住地再編（2025年度は野村准教授、坪内助教でベトナムを視察）、国内外の農村等の過疎地域のコミュニティ賦活、障害当事者の地域移行の計画論などがあります。

一方、実務活動は、これまでの実績を踏まえつつ新たなフィールドへ展開しており、近年は苫小牧市の駅前空間の利活用に向けた社会実験などに取り組んでいます。苫小牧市との関わりでは、過去に研究室が実務で携わった苫小牧市民文化ホール「ART CUBES」が2026年3月1日に開館を迎えました。研究室としても見学の機会をいただき、これまでの取り組みが実際の建築物になったことを実感する貴重な機会となりました。

なお、今年は日本建築学会の大会が広島で開催されます。現役の研究室メンバーとOB・OGが集う8講会も期間中に実施いたしますので、お近くにお住まいの方はぜひご参加いただけますと幸いです。また、同じく9月には講座創設50周年の記念イベントも東京で実施する予定です。

研究室の活動はHPで紹介しておりますのでどうぞご覧ください。

<http://www.hokudaiapr.com/>



苫小牧市民文化ホールの研究室での見学の様子